

專 門 基 礎 分 野

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
人体の見方と消化・吸収	下高原 理恵	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい） 人体の構造についての基本的な見方と消化吸収に関する構造と機能を理解する。				
回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	解剖生理学の基礎知識が理解できる	講義	解剖生理学 第 1 章	
2	解剖生理学の基礎知識が理解できる	講義	第 1 章	
3	解剖生理学の基礎知識が理解できる	講義	第 1 章	
4	栄養の消化と吸収が理解できる ・口、咽頭、食道の構造と機能	講義	解剖生理学 第 2 章	
5	栄養の消化と吸収が理解できる ・口、咽頭、食道の構造と機能	講義	自己の身体と関 連させて学ぶ	
6	栄養の消化と吸収が理解できる ・口、咽頭、食道の構造と機能	講義	第 2 章	
7	栄養の消化と吸収が理解できる ・腹部消化管の構造と機能	講義	第 2 章	
8	栄養の消化と吸収が理解できる ・腹部消化管の構造と機能	講義	第 2 章	
9	栄養の消化と吸収が理解できる ・腹部消化管の構造と機能	講義	第 2 章	
10	栄養の消化と吸収が理解できる ・腹部消化管の構造と機能	講義	第 2 章	
11	栄養の消化と吸収が理解できる ・膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講義	第 2 章	
12	栄養の消化と吸収が理解できる ・膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講義	第 2 章	
13	栄養の消化と吸収が理解できる ・膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講義	第 2 章	
14	腹膜	講義	第 2 章	
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 100%		テキスト・参考書等 (医) 解剖生理 (医) 生化学 (医) 解剖学ワークブック		
備考 事前に教科書を読んでおくこと。配布資料管理と自己の学習ノートを作る。				
実務経験 本科目は歯科医師として実務経験のある教員による授業である				

授業科目 呼吸と血液・循環の調節		担当講師名 田松 裕一	単位数 1 単位 時間数 30 時間	対象学年 1 年次
学習目標（ねらい） 呼吸と血液循環と調節に関する人体の構造と機能を理解する。				
回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	呼吸器の構造と機能が理解できる ・呼吸器の構造	講義	自己の呼吸を想起して臨む 第3章	
2	呼吸器の構造と機能が理解できる ・呼吸器の構造	講義	解剖生理学 第3章	
3	呼吸器の構造と機能が理解できる ・呼吸器の構造	講義	解剖生理学 第3章	
4	呼吸器の構造と機能が理解できる ・呼吸器の機能	講義	解剖生理学 第3章	
5	呼吸器の構造と機能が理解できる ・呼吸器の機能	講義	解剖生理学 第3章	
6	呼吸器の構造と機能が理解できる ・呼吸器の機能	講義	解剖生理学 第3章	
7	血液の構造と機能が理解できる ・血液の組成と機能	講義	解剖生理学 第3章	
8	血液の構造と機能が理解できる ・血漿タンパク質と血液凝固・線維素溶解	講義	解剖生理学 第3章	
9	血液の構造と機能が理解できる ・血液型	講義	解剖生理学 第3章	
10	循環器系の構成と機能理解できる ・心臓の構造と機能	講義	解剖生理学 第4章	
11	循環器系の構成と機能理解できる ・心臓の構造と機能	講義	解剖生理学 第4章	
12	循環器系の構成と機能理解できる ・末梢循環系の構造	講義	解剖生理学 第4章	
13	循環器系の構成と機能理解できる ・血液循環の調節	講義	解剖生理学 第4章	
14	循環器系の構成と機能理解できる ・リンパとリンパ管	講義	解剖生理学 第4章	
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 100 %			テキスト・参考書等 (医) 解剖生理学 (医) 解剖学ワークブック	
備考 事前に教科書を読んでおくこと。配布資料管理と自己の学習ノートを作る。				
実務経験 本科目は歯科医師として実務経験のある教員による授業である。				

授業科目 腎・泌尿器と内臓機能の調節	担当講師名 田松 裕一	単位数 時間数	1 単位 30 時間	対象学年 1 年次
学習目標（ねらい） 腎・泌尿器と内臓機能調整を行う人体の構造と機能を理解する。				
回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	腎臓・泌尿器の構造と機能が理解できる ・総論	講義	解剖生理学 第 5 章	
2	腎臓の構造と機能が理解できる	講義	第 5 章	
3	腎臓の構造と機能が理解できる	講義	第 5 章	
4	腎臓の構造と機能が理解できる	講義	第 5 章	
5	腎臓の構造と機能が理解できる	講義	第 5 章	
6	腎臓の構造と機能が理解できる	講義	第 5 章	
7	泌尿器の構造と機能が理解できる	講義	第 5 章	
8	泌尿器の構造と機能が理解できる	講義	第 5 章	
9	泌尿器の構造と機能が理解できる ・電解質の異常	講義	病態生理学も活用	
10	泌尿器の構造と機能が理解できる ・酸塩基平衡	講義	病態生理学も活用	
11	内臓機能の調節が理解できる ・自律神経	講義	解剖生理学 第 6 章	
12	内臓機能の調節が理解できる ・内分泌による調節	講義	第 6 章	
13	内臓機能の調節が理解できる	講義	第 6 章	
14	内臓機能の調節が理解できる	講義	第 6 章	
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 100%		テキスト・参考書等 (医) 解剖生理学 (医) 病態生理学 (医) 解剖学ワークブック		
備考 事前に教科書を読んでおくこと。配布資料管理と自己の学習ノートを作る。				
実務経験 本科目は歯科医師として実務経験のある教員による授業である				

授業科目 運動器・脳神経		担当講師名 田松 裕一	単位数 1 単位 時間数 3 0 時間	対象学年 1 年次
学習目標（ねらい） 身体の支持と運動及び脳神経、感覚器に関する人体の構造と機能を理解する。				
回数	学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	運動器の構造と機能 骨格、骨について基本的知識が理解できる		講義	解剖生理学 第 7 章
2	骨格と骨格筋について理解できる		講義	第 7 章
3	体幹の骨格と筋について理解できる		講義	第 7 章
4	体幹の骨格と筋について理解できる		講義	第 7 章
5	上肢の骨格と筋について理解できる		講義	第 7 章
6	下肢の骨格と筋について理解できる		講義	第 7 章
7	頭頸部の骨格と筋について理解できる		講義	第 7 章
8	筋の収縮について理解できる		講義	第 7 章
9	脳神経系の構造と機能 神経系の構造と機能について理解できる		講義	第 8 章
10	脊髄と脳について理解できる		講義	第 8 章
11	脊髄神経と脳神経について理解できる		講義	第 8 章
12	脳の高次脳機能について理解できる		講義	第 8 章
13	運動機能と下行伝導路について理解できる		講義	第 8 章
14	感覚機能と上行伝導路について理解できる		講義	第 8 章
15	まとめと終講試験		講義	第 8 章
評価方法 筆記試験 1 0 0 %			テキスト・参考書等 (医) 解剖生理学 解剖学ワークブック	
備考 事前に教科書を読んでおくこと。配布資料管理と自己の学習ノートを作る。				
実務経験 本科目は歯科医師として実務経験のある教員による授業である				

授業科目 人の発生と防御・感覚の 機能	担当講師名 下高原 理恵	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	対象学年 1 年次
学習目標（ねらい） 人体の感染防御の仕組みと生命を生み出す生殖に関する構造と機能が理解できる。				
回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	生殖・発生と老化の仕組みが理解できる 男性生殖器が理解できる	講義	解剖生理学 第 1 0 章	
2	女性生殖器が理解できる	講義	第 1 0 章	
3	受精と胎児の発生について理解できる	講義	第 1 0 章	
4	成長と老化について理解できる	講義	第 1 0 章	
5	身体機能の防御と適応について理解できる ・皮膚の構造と機能	講義	第 9 章	
6	・生体の防御機構	講義	第 9 章	
7	身体機能の防御と適応について理解できる	講義	第 9 章	
8	身体機能の防御と適応について理解できる	講義	第 9 章	
9	代謝と運動について理解できる	講義	第 9 章	
10	体温とその調節について理解できる	講義	第 9 章	
11	感覚器の構造と機能 目の構造と視覚について理解できる	講義	第 8 章	
12	耳の構造と聴覚・平衡覚について理解できる	講義	第 8 章	
13	味覚と嗅覚について理解できる	講義	第 8 章	
14	痛みについて理解できる	講義	第 8 章	
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験		1 0 0 %		
		テキスト・参考書等 (医) 解剖生理学 (医) 解剖学ワークブック		
備考 事前に教科書を読んでおくこと。配布資料管理と自己の学習ノートを作る。				
実務経験 本科目は歯科医師として実務経験のある教員による授業である				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
看護のための栄養学	町田 美由紀	時間数	3 0 時間	1 年次
学習目標（ねらい）				
ライフステージにおける栄養と臨床栄養についての意義と実際が理解できる。				
回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	人間栄養学と看護について理解できる ・食事療法	講義	第 1 章	
2	栄養素の種類と働きについて理解できる	講義	第 2 章	
3	食物の消化と栄養素の吸収・代謝について理解できる ・エネルギー代謝	講義	第 3 章 第 4 章 第 5 章	
4	栄養ケアマネジメントについて理解できる	講義	第 6 章	
5	栄養状態の評価・判定について理解できる	講義	第 7 章	
6	ライフステージと栄養について理解できる	講義	第 8 章	
7	臨床栄養について理解できる ・病院食 ・栄養補給法	講義	第 9 章	
8	臨床栄養について理解できる ・疾患・症状別食事療法	講義	第 9 章	
9	臨床栄養について理解できる ・糖尿病患者の食事療法	講義	第 9 章	
10	臨床栄養について理解できる ・腎臓病患者の食事療法 ・高血圧症患者の食事療法	講義	第 9 章	
11	臨床栄養について理解できる ・消化器疾患患者の食事療法	講義	第 9 章	
12	臨床栄養について理解できる ・治療を要する小児の栄養管理 ・術前・術後における栄養管理	講義	第 9 章	
13	臨床栄養について理解できる ・高齢者の栄養管理 ・がん患者の食事療法	講義	第 9 章	
14	健康づくりと食生活について理解できる	講義	第 1 0 章	
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験		1 0 0 %		
		テキスト・参考書等 （医）栄養学 糖尿病食事療法のための食品 交換表		
備考				
教科書を読んで講義に臨むこと。自分自身の食生活や栄養を考えながら、看護師に必要な知識を学ぶ。				
実務経験 本科目は管理栄養士として豊富な経験のある教員の授業である				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
微生物学	吉田 恵	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい） 微生物の特徴と生態に及ぼす影響、微生物によって引き起こされる感染症に対処できるための基礎的知識を理解できる。				
回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	微生物学の基礎知識について理解できる ・微生物と微生物学	講義	微生物学 第1章 第2章	
2	微生物学の基礎知識について理解できる ・真菌の性質	講義	第3章	
3	微生物学の基礎知識について理解できる ・原虫の性質	講義	第4章	
4	微生物学の基礎知識について理解できる ・ウイルスの性質	講義	第5章	
5	感染とその防御について理解できる ・感染と感染症	講義	第6章	
6	感染とその防御について理解できる ・感染と感染症	講義	第7章	
7	感染とその防御について理解できる ・感染と感染症	講義	第8章	
8	感染とその防御について理解できる ・滅菌と消毒	講義	第9章	
9	感染とその防御について理解できる ・感染症の検査と診断	講義	第10章	
10	感染とその防御について理解できる ・感染症の治療 ・感染症の現状と対策	講義	第11章 第12章	
11	主な病原微生物について理解できる ・病原細菌と細菌感染症	講義	第13章	
12	主な病原微生物について理解できる ・病原細菌と細菌感染症	講義	第14章	
13	主な病原微生物について理解できる ・病原原虫と原虫感染症	講義	第15章	
14	主な病原微生物について理解できる ・病原ウイルスとウイルス感染症	講義	第16章	
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 100 %		テキスト・参考書等 (医) 微生物学		
備考 人間の健康に外界にある微生物が人間にどのような変化や影響をもたらすかを理解し、必要な看護の学習につなげる。 教科書を読んで授業に臨む。				
実務経験 高等教育機関における学識経験者が講義・演習を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
病態生理学	吉永 あゆみ	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい）				
人体の形態や機能に異常な変化が生じた際の症状や徴候を理解し、損なわれた生理機能の回復や失われた機能の補填にどうつなげればよいか、その基礎的知識を理解する。				
回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	病態生理学の基礎知識について理解できる	講義	第1章	
2	病態生理学の基礎知識について理解できる	講義	第1章	
3	皮膚・体温調節のしくみと病態生理について理解できる	講義	第2章	
4	免疫の仕組みと病態生理について理解できる	講義	第3章	
5	体液調節のしくみと病態生理について理解できる	講義	第4章	
6	血液の働きと病態生理について理解できる	講義	第5章	
7	循環の仕組みと病態生理について理解できる	講義	第6章	
8	呼吸の仕組みと病態生理について理解できる	講義	第7章	
9	消化吸収の仕組みと病態生理について理解できる	講義	第8章	
10	腎・泌尿器のしくみと病態生理について理解できる	講義	第9章	
11	内分泌・代謝のしくみと病態生理について理解できる	講義	第10章	
12	生殖のしくみと病態生理について理解できる	講義	第11章	
13	脳・神経、筋肉のはたらきと病態生理について理解できる	講義	第12章	
14	感覚器の働きと病態生理について理解できる	講義	第13章	
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 100 %		テキスト・参考書等 (医) 病理学 (医) 病態生理学		
備考 この科目は、体の構造と機能が病的に変化した場合に、どのような器質変化・機能変化がおこるかの基本的な知識を学び、各系統別の病理学の理解へとつなげるものである。教科書を読んで講義に臨む。				
実務経験 本科目は医師として実務経験のある教員による授業である				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
看護のための薬理学	寺 蘭 英之	時間数	3 0 時間	1 年次
学習目標（ねらい） 薬物の特徴、薬理作用および、人体への影響と与薬の方法について理解できる。				
回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	薬理学の基礎知識について理解できる	講義	第 1 章 第 2 章	
2	抗感染症薬について理解できる	講義	第 3 章	
3	抗がん薬について理解できる	講義	第 4 章	
4	免疫治療薬について理解できる	講義	第 5 章	
5	抗アレルギー薬・抗炎症薬について理解できる	講義	第 6 章	
6	末梢での神経活動に作用する薬物について理解で	講義	第 7 章	
7	中枢神経系に作用する薬物について理解できる	講義	第 8 章	
8	循環器系に作用する薬物について理解できる	講義	第 9 章	
9	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物について理解できる	講義	第 1 0 章	
10	物質代謝に作用する薬物について理解できる	講義	第 1 1 章	
11	皮膚科用薬・眼科用薬について理解できる	講義	第 1 2 章	
12	救急使用薬について理解できる	講義	第 1 3 章	
13	漢方薬について理解できる	講義	第 1 4 章	
14	消毒薬、輸液製剤・輸血剤について理解できる	講義	第 1 5 章 第 1 6 章	
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 1 0 0 %		テキスト・参考書等 (医) 薬理学		
備考 教科書を読んで授業に臨むこと。看護師の「診療の補助技術」につながる科目である。				
実務経験 本科目は薬剤師として実務経験のある教員による授業である				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
消化吸収機能の健康	宇都宮 民治 26 H	時間数	30 時間	1 年次
障害と人間の反応	専任教員 4 H			
学習目標（ねらい）				
消化吸収の機能障害、検査、治療について理解する。				
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	主要な消化器症状と病態生理について理解できる	講義	第3章	
2	主要な検査について理解できる ・診察と診断 ・主要な検査	講義	第4章	
3	主要な治療法について理解できる	講義	第4章	
4	主要な疾患について理解できる ・食道疾患	講義	第5章	
5	主要な疾患について理解できる ・胃・十二指腸疾患	講義	第5章	
6	主要な疾患について理解できる ・腸及び腹部疾患	講義	第5章	
7	主要な疾患について理解できる ・腸及び腹部疾患	講義	第5章	
8	主要な疾患について理解できる ・腸及び腹部疾患	講義	第5章	
9	主要な疾患について理解できる ・肝臓・胆嚢の疾患	講義	第5章	
10	主要な疾患について理解できる ・肝臓・胆嚢の疾患	講義	第5章	
11	主要な疾患について理解できる ・肝臓・胆嚢の疾患	講義	第5章	
12	主要な疾患について理解できる ・膵臓の疾患	講義	第5章	
13	主要な疾患について理解できる ・急性腹症	講義	第5章	
14	消化器疾患の事例について看護につながる病態のアセスメントができる	演習		
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 95% 課題達成度 5%		テキスト・参考書等 (医) 消化器		
備考 事前に教科書を読み講義に臨む。				
実務経験 本科目は医師、及び看護師として実務経験のある教員による授業である				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
呼吸と血液の健康障害 と人間の反応	田原 博幸 10 H 山口 宗一 16 H 専任教員 4 H	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい） 1. 呼吸の機能障害、検査、治療について理解する。 2. 血液・造血器の機能障害、検査、治療について理解する。				
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	1. 呼吸の健康障害と人間の反応 主要な呼吸器症状と病態生理について理解できる	講義	呼吸器 第3章	
2	主要な検査について理解できる 感染症	講義	第4章	
3	主要な治療法について理解できる 間質性疾患 気道疾患	講義	第4章	
4	主要な疾患について理解ができる 呼吸不全 呼吸調節に関する疾患	講義	第5章	
5	主要な疾患について理解ができる 肺腫瘍 胸部外傷	講義	第5章	
6	2. 血液・造血器の健康障害と人間の反応 血液・造血器症候と病態生理について理解できる	講義	血液・造血器 第3章	
7	検査について理解できる	講義	第3章	
8	疾患と治療の理解について理解できる 赤血球系の異常	講義	第4章	
9	疾患と治療の理解について理解できる 白血球系の異常	講義	第4章	
10	疾患と治療の理解について理解できる 造血器腫瘍	講義	第4章	
11	疾患と治療の理解について理解できる 造血器腫瘍	講義	第4章	
12	疾患と治療の理解について理解できる 出血性疾患	講義	第4章	
13	疾患と治療の理解について理解できる 出血性疾患	講義	第4章	
14	呼吸器疾患、血液造血器疾患の事例について看護につながる 病態のアセスメントができる	演習		
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 95% 課題達成度 5%		テキスト・参考書等 (医)呼吸器 血液・造血器		
備考 事前に教科書を読み講義に臨む。				
実務経験 本科目は医師、及び看護師として実務経験のある教員による授業である。				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
循環の健康障害と人間の反応	長柄 英男 2 2 H 田原 博幸 4 H 専任教員 4 H	時間数	3 0 時間	1 年次
学習目標（ねらい） 循環器疾患における症状・徴候の特徴と、その病態生理について理解できる。				
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	主要な循環器症状と病態生理について理解できる	講義	循環器 第 3 章	
2	主要な検査について理解できる	講義	第 4 章	
3	治療について理解できる	講義	第 4 章	
4	主要な疾患について理解できる 虚血性心疾患	講義	第 5 章	
5	主要な疾患について理解できる 心不全	講義	第 5 章	
6	主要な疾患について理解できる 血圧異常	講義	第 5 章	
7	主要な疾患について理解できる 不整脈	講義	第 5 章	
8	主要な疾患について理解できる 弁膜症	講義	第 5 章	
9	主要な疾患について理解できる 心筋疾患	講義	第 5 章	
10	主要な疾患について理解できる 心膜炎	講義	第 5 章	
11	主要な疾患について理解できる 動脈系心疾患 静脈系疾患	講義	第 5 章	
12	小児において主要な疾患について理解できる 心不全 先天性心疾患	講義	小児臨床看護学 各論第 8 章	
13	小児において主要な疾患について理解できる 後天性心疾患（川崎病）	講義	小児臨床看護学 各論第 8 章	
14	循環器疾患の事例について看護につながる病態のアセスメントができる	演習		
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 9 5 % 課題達成度 5 %		テキスト・参考書等 （医） 循環器 小児臨床看護学各論		
備考 事前に教科書を読み講義に臨む。				
実務経験 本科目は医師、及び看護師として実務経験のある教員による授業である				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
腎・泌尿器と内分泌・栄養代謝の健康障害と人間の反応	内田 洋介 1 0 H 外来講師 1 6 H 専任教員 4 H	時間数	3 0 時間	2 年次
学習目標（ねらい）				
1. 腎泌尿器の機能障害、検査、治療について理解する。				
2. 内分泌と栄養代謝の機能障害、検査、治療について理解する。				
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	1. 腎・泌尿器の健康障害と人間の反応 主要な腎・泌尿器症状と病態生理について理解できる	講義	腎・泌尿器 第3章	
2	主要な検査について理解できる	講義	第4章	
3	治療について理解できる	講義	第4章	
4	主要な疾患について理解できる	講義	第5章	
5	主要な疾患について理解できる	講義	第5章	
6	2. 内分泌・栄養代謝の健康障害と人間の反応 主要な内分泌・栄養代謝の症状と病態生理について理解できる	講義	内分泌 第3章	
7	主要な検査について理解できる	講義	第4章	
8	主要な疾患について理解できる ・内分泌疾患	講義	第5章	
9	主要な疾患について理解できる ・甲状腺、	講義	第5章	
10	主要な疾患について理解できる ・副腎の疾患	講義	第5章	
11	主要な疾患について理解できる ・代謝疾患	講義	第5章	
12	主要な疾患について理解できる ・代謝疾患	講義	第5章	
13	主要な疾患について理解できる ・代謝疾患	講義	第5章	
14	腎泌尿器もしくは栄養代謝障害の疾患事例について看護につながる病態のアセスメントができる	演習		
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 9 5 % 課題達成度 5 %		テキスト・参考書等 (医) 腎・泌尿器 内分泌・代謝		
備考 事前に教科書を読み講義に臨む。				
実務経験 本科目は医師、及び看護師として実務経験のある教員による授業である				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
運動器・脳神経と感覚器の健康障害と人間の反応	山下 学 1 4 H 栢木 祐作 1 2 H 田中 実 4 H	時間数	3 0 時間	2 年次
学習目標（ねらい）				
1. 運動器の機能障害、検査、治療について理解する。				
2. 脳神経、感覚器の機能障害、検査、治療について理解する。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	1. 運動器の健康障害と人間の反応 主要な運動器疾患の症状と病態生理について理解できる		講義	運動器 第 3 章
2	主要な検査について理解できる		講義	第 4 章
3	治療・処置について理解できる ・保存療法 ・理学療法と作業療法		講義	第 4 章
4	治療・処置について理解できる ・手術療法 ・義肢と装具		講義	第 4 章
5	主要な疾患について理解できる ・外傷性疾患		講義	第 5 章
6	主要な疾患について理解できる ・内因性疾患		講義	第 5 章
7	主要な検査について理解できる ・内因性疾患		講義	第 5 章
8	2. 脳神経の健康障害と人間の反応 主要な脳神経疾患の症状と病態生理について理解できる		講義	脳神経 第 3 章
9	主要な検査、治療、処置について理解できる		講義	第 4 章
10	主要な疾患について理解できる ・脳血管障害 ・脳腫瘍		講義	第 5 章
11	主要な疾患について理解できる ・頭部外傷 ・脳脊髄液の異常 ・脱髄、変性疾患		講義	第 5 章
12	主要な疾患について理解できる ・感染症 ・中毒 ・てんかん ・認知症		講義	第 5 章
13	3. 感覚器の健康障害と人間の反応 症状と病態生理、主要疾患について理解できる		講義	
14	主要な疾患について理解できる		演習	
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験			テキスト・参考書等 (医) 運動器 (医) 脳・神経 (医) 眼科	
備考 事前に教科書を読み講義に臨む。				
実務経験 本科目は医師、及び看護師として実務経験のある教員による授業である				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
生殖器・免疫系の健康障害と人間の反応	福元 奈菜 22H 久留 光博 8H	時間数	30 時間	2 年次
学習目標（ねらい）				
1. 生殖器の機能障害、検査、治療について理解する。 2. 免疫系の障害、検査、治療について理解する。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	1. 生殖器の健康障害と人間の反応 主要な生殖器疾患の症状と病態生理が理解できる		講義	女性生殖器 第3章
2	主要な検査について理解できる。		講義	第4章
3	治療・処置について理解できる		講義	第4章
4	主要な疾患について理解できる ・性分化疾患		講義	第5章
5	主要な疾患について理解できる ・臓器別疾患		講義	第5章
6	主要な疾患について理解できる		講義	第5章
7	主要な疾患について理解できる		講義	第5章
8	主要な疾患について理解できる		講義	第5章
9	主要な疾患について理解できる ・機能的疾患		講義	第5章
10	2. 免疫系の健康障害と人間の反応 主要な免疫系疾患の診断、検査について理解できる		講義	アレルギー・膠原 病感染症 第3章
11	主要な免疫系疾患の治療について理解できる		講義	第3章
12	主要な免疫系疾患の症状と病態生理について理解できる		講義	第4章
13	主要な免疫系疾患の症状と病態生理について理解できる		講義	第4章
14	生殖器疾患もしくは免疫系疾患の事例について、看護につ ながる病態のアセスメントができる		講義	第4章
15	まとめと終講試験		講義	第4章
評価方法 筆記試験 95% 課題達成度 5%			テキスト・参考書等 (医) 女性生殖器 アレルギー・膠原病感染症	
備考 教科書を読んで講義に臨む。				

授業科目 精神・心身の健康障害と 人間の反応	担当講師名 興野 康也	単位数 1 単位 時間数 1 5 時間	対象学年 2 年次
学習目標（ねらい） 1. 精神保健のニーズを知り精神の健康障害を持つ人の検査、治療について理解する。			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	主要な精神・心身の健康障害の症状と病態生理について理解できる ・精神症状論と状態像	講義	精神看護の基礎 第 5 章
2	主要な精神・心身の健康障害の症状と病態生理について理解できる ・精神障害の診断と分類	講義	第 5 章
3	主要な精神・心身の健康障害の症状と病態生理について理解できる ・気分障害	講義	第 5 章
4	主要な精神・心身の健康障害の症状と病態生理について理解できる ・神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害	講義	第 5 章
5	主要な精神・心身の健康障害の症状と病態生理について理解できる ・精神作用物質使用による精神および行動の障害 ・各発達段階で表れやすい精神障害・心的不調	講義	第 5 章
6	精神科での治療について理解できる ・精神科における治療 ・精神療法	講義	第 6 章
7	精神科での治療について理解できる ・薬物療法 ・電気けいれん療法 ・環境療法・社会療法	講義	第 6 章
8	まとめと終講試験		
評価方法 筆記試験 1 0 0 %		テキスト・参考書等 (医) 精神看護の基礎	
備考			
実務経験 本科目は医師として実務経験のある教員による授業である			

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
地域における社会資源 の実際	専任教員	時間数	1 5 時間	1 年次
学習目標（ねらい） 法律にもとづき地域包括ケアにおける生活がどのような制度や社会資源を活用して成り立っているのかを実際を通して理解する。				
回数	学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	地域包括ケアと暮らしの実際を支える社会資源とは何か、 考えることができる ・インフォーマル、フォーマルな資源の理解 ・調査計画立案（グループ・個人）		講義 演習	既習の基礎分野と 地域・在宅看護論 の学びを活用し主 体的に取り組む
2	地域の地理と災害について調査できる。		演習	学びのレポート提 出（個人）
3	地域に住む人を想定した健康支援への提言にかかる調査が できる（以下の視点を取り入れた提言をめざす） ・地域の保健・医療・福祉における社会資源の具体的活 用 ・具体的な地理的特徴、減災の視点の考察と提言 ・地域に暮らす人々の特徴の調査と考察（年齢、健康寿 命、産業など） ・在日外国人の保健・医療にかかる調査等		演習	他科目での学びも 活用する
4	調査を実施できる		演習	メンバーシップを 発揮する
5	調査を実施できる		演習	メンバーシップを 発揮する
6	調査のまとめ 発表資料作成ができる ・発表資料はモニターに映す。文字の大きさや見やすい色 や資料などを工夫する		演習	効果的なプレゼン テーションの工夫
7	調査結果と提言の発表ができる ・発表 ・意見交換		演習	主体的にメンバー と協力する
8	全体での学びを共有し、視野を深めることができる		まとめ	小論文
評価方法 出席状況 主体的取り組み グループへの貢献度 6 0 % 課題レポート 4 0 %			テキスト・参考書等	
備考 ・取り組みに対する自己評価を提出すること。 看護の土台である「対象を知る」ために、現実に対象が生活している環境を、地域を含めた視点で理 解する。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
看護と法律	安藤 哲夫	時間数	1 5 時間	3 年次
学習目標（ねらい）				
看護に必要な法規について理解し、看護職の役割と責任を自覚することができる。				
回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	法の概念について理解できる 看護法について理解できる	講義	看護関係法令 第1章 第2章	
2	医事法について理解できる	講義	第3章	
3	保健衛生法について理解できる	講義	第4章	
4	薬務法について理解できる	講義	第5章	
5	社会保険法について理解できる	講義	第6章	
6	福祉法について理解できる	講義	第7章	
7	労働法と社会基盤整備について理解できる 環境法について理解できる	講義	第8章 第9章	
8	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 100%		テキスト・参考書等 (医) 看護関係法令		
備考				
看護職を含む社会の活動は法律に基づいて行われている。その法律を理解することにより、専門職としての理解が深まる。				
実務経験 高等教育機関における学識経験者が講義・演習を行う				

授業科目 公衆衛生学	担当講師名 小松 正治	単位数 1 単位 時間数 1 5 時間	対象学年 2 年次
学習目標（ねらい） 公衆衛生の組織的な保健活動と関連する法令や統計情報を理解できる。			
回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	公衆衛生の概要について理解できる	講義	第 1 章
2	公衆衛生の活動対象と仕組みについて理解できる	講義	第 2 章 第 3 章
3	集団の健康をとらえるための手法について理解できる 環境と健康について理解できる	講義	第 4 章 第 5 章
4	感染症とその予防対策について理解できる 国際保健について理解できる	講義	第 6 章 第 7 章
5	地域における公衆衛生の実践について理解できる	講義	第 8 章
6	学校と保健について理解できる	講義	第 9 章
7	職場と健康について理解できる 健康危機管理について理解できる	講義	第 1 0 章 第 1 1 章
8	まとめと終講試験		
評価方法 筆記試験 1 0 0 %		テキスト・参考書等 (医) 公衆衛生	
備考			
実務経験 高等教育機関における学識経験者が講義・演習を行う			

授業科目 社会保障	担当講師名 川崎 竜太	単位数 1 単位 時間数 3 0 時間	対象学年 2 年次
学習目標（ねらい） 社会保障の制度、及び動向についての基礎的知識を修得し、保健・医療・福祉の連携の重要性が理解できる			
回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	社会保障制度と社会福祉について理解できる	講義	社会保障・社会福祉 第 1 章
2	社会保障制度と社会福祉について理解できる	講義	第 1 章
3	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向について理解できる	講義	第 2 章
4	医療保障について理解できる	講義	第 3 章
5	医療保障について理解できる	講義	第 3 章
6	介護保障について理解できる	講義	第 4 章
7	所得保障について理解できる	講義	第 5 章
8	所得保障について理解できる	講義	第 5 章
9	公的扶助について理解できる	講義	第 6 章
10	社会福祉の分野とサービスについて理解できる	講義	第 7 章
11	社会福祉の分野とサービスについて理解できる	講義	第 7 章
12	社会福祉実践と医療・看護について理解できる	講義	第 8 章
13	社会福祉実践と医療・看護について理解できる	講義	第 8 章
14	社会福祉の歴史について理解できる	講義	第 9 章
15	まとめと終講試験	終講試験	
評価方法 筆記試験 100%		テキスト・参考書等 (医) 社会保障・社会福祉	
備考			
実務経験 高等教育機関における学識経験者が講義・演習を行う			

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
保健医療論	野田 伸一	時間数	1 5 時間	1 年次
学習目標（ねらい）				
医療と看護の原点について学び、医療の現状、問題、医療をめぐる新しい動向を理解できる。				
回数	学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	医療と看護の原点について基礎的知識を理解し、看護について考えることができる		講義	総合医療論 第 1 章
2	医療の歩みと医療観の変遷についての理解ができる		講義	第 2 章
3	私たちの生活と健康について理解できる		講義	第 3 章
4	私たちの生活と健康について理解できる		講義	第 3 章
5	現代医療とその新たな課題について理解できる。		講義	第 4 章 第 5 章
6	医療について新たな視点で考えることができる		講義	第 6 章
7	現代及び未来を見通し、保健・医療・福祉について考えることができる		講義	第 7 章
8	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 100%			テキスト・参考書等 (医) 総合医療論	
備考 病と健康に関する多くの学問は相互につながっており、生物学的医学は実は医学の一部に過ぎない。 医療や看護の原点から、さらに今日的な課題に幅広い視点を持って考えていってほしい。				
実務経験 高等教育機関における学識経験者が講義・演習を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
地域における健康支援	早坂 滋樹	時間数	1 5 時間	3 年次
学習目標（ねらい）				
地域における生活する人をとらえ、その生活における健康支援について具体的に理解できる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	1. 生活が困難な人の支援システムの実際 ・生活が困難な人のニーズ ・ニーズの汲み取りと専門職への連携 ・生活が困難な人の支援のステップ		講義	具体的事例を用いながら支援について考える
2	2. 生活が困難な人の事例展開 1 ・全体像の把握と考察 ・支援の方向性と具体的内容の考察 ・多職種との連携の考察 ・個人ワーク		演習	事例について個人で考えレポートを書き提出
3	事例検討 グループ討議 発表準備		グループワーク	個人のレポートを持ちより検討する
4	事例検討 全体発表 意見交換		グループワーク	全体討議で学びを共有する
5	3. 生活が困難な人の事例展開 2 ・全体像の把握と考察 ・支援の方向性と具体的内容の考察 ・多職種との連携の考察		演習 個人ワーク	事例について個人で考えレポートを書き提出
6	事例検討 グループ討議 発表準備		グループワーク	個人のレポートを持ちより検討する
7	事例検討 全体発表 意見交換		グループワーク	全体討議で学びを共有する
8	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 50% 課題レポート 40% 出席状況・主体的取り組み・グループ貢献度 10%			テキスト・参考書等 関連する資料を各自で持参する	
備考 既習の知識を活用し、具体的に主体的に支援について考える。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				